

## 第3章 製品と技術

### 自動車

## 位置情報サービスの基盤技術は整備段階 IMT-2000による通信支援に期待

自動車の情報化は、高度道路交通システム(Intelligent Transport System : ITS)における重要な課題である。ITSでは、道路・自動車・人を1つのシステムととらえ、情報技術によって円滑な交通システムの実現を目指している。現在ITSの一環として、交通渋滞の緩和を目的とした情報提供システムVICS (Vehicle Information & Communication System) や、ノンストップ自動料金収受システム ( ETC: Electronic Toll Collection System) が一部で運用されており、今後さらに広い分野に渡るサービスが提供される予定である。

この中において、インターネットを利用した民間主導のサービスも始まっている。カーナビゲーションシステム (以下カーナビ) の機能強化がひと通り落ち着き、他の製品との差別化が難しくなると、インターネットを介した情報提供で差をつけるような動きが出てきた。現在、宿泊・店舗などのポイント情報や、目的地までの道の検索などが可能になってきている。

### 現在はカーナビの付加機能

“インターネットカーナビ”と呼ばれる、インターネットとカーナビを合わせた製品が発売されている。本田技研工業が運用しているインターナビでは、ウェブを介したドライブ情報収集と、カーナビ上で利用できる情報を連係させることにより、個人向けのきめ細かな情報提供を可能にしている。また、トヨタ自動車の自動車向け情報提供サービス (MONET: Mobile Network) 対応カーナビなど、ウェブブラウザやメールソフトを搭載したカーナビが多く発売されている。

しかし、単なるウェブブラウザが搭載されたカーナビでは、使い勝手が悪い上に通信料金が安いこともあり、あまり利用されないのが実情である。このため、各

社とも自社専用の情報サービスを主としており、インターネットとのリンクは付加機能程度として利用されている。

また2000年春からは、NTTドコモがiモードを利用したカーナビ用のサービスを開始した。自動車の情報化においては通信デバイスの性能の問題が大きいため、インターネットを介したサービスだけで始めるケースは少なく、多種多様なサービスから出発し、順次インターネットを基盤としたサービスへ移行する傾向にある。

### 位置情報交換の言語 POIX

しかし、インターネットに着目した自動車情報化の動きが下火になっているわけではなく、逆に期待は大きくなっている。現在は、ニーズに合ったサービスを行うための基盤作りが行われている最中である。近い将来には、インターネットによる洗練されたサービスを利用できる製品が市場に登場すると予想される。自動車においては位置の取り扱いが重要なポイントとなる。1999年、W3Cでは POIX (Point Of Internet Exchange Language) と呼ばれる位置情報交換のための言語を策定した。これにより、店舗情報など、位置を含む情報交換の基盤が整えられつつある。また、G-XMLプロジェクトによりGISコンテンツ<sup>注1</sup>を自由にインターネット上で流通させるための枠組みが作られつつある。

インターネットと自動車をテーマにした産・官・学共同プロジェクトも多く存在する。これらのプロジェクトは、「自動車の情報をインターネット上で利用するためのもの」「現在設置されつつある自動車の通信媒体を用いて、インターネットの利用を目指すもの」など、さまざまな分野で研究が進められている。慶應大学 WIDEプロジェクトを中心とするインターネット自動車プロジェクトでは、自動車

をインターネットに接続するための技術開発と、その基盤上で動作するアプリケーションに関する研究を行っている。

通信の分野においても、自動車は次の恰好のターゲットとなっている。2001年末からはIMT-2000のサービス開始が予定されている。IMT-2000では、自動車における通信の支援も十分考慮されており、自動車とインターネットの接続プラットフォームとして期待されている。一方で、マルチメディア移動アクセス (MMAC: Multimedia Mobile Access Communication Systems) を自動車で利用する研究も始まっている。

いわゆる“インターネットカーナビ”を中心とした現在のインターネットによる自動車の情報化は、インターネットの利点を活かしているとはいえない。インターネットは多くの人が自由に情報を交換することによって情報の価値を高めることができるシステムである。今後、情報交換のためのガイドラインなどをまとめることにより、また、POIXやG-XMLのような共通基盤を構築することにより、多くの人が自動車に対して情報を発信・交換できる環境を作ることが重要である。これによって、インターネットによる自動車情報化の市場自体が大きくなり、ユーザーの手にはさらに有用な情報が届けられるようになると思われる。

(植原啓介 WIDEプロジェクト)

注1 GIS (Geographic Information System) とは地理情報システム、または地図情報システム。G-XMLとはXMLをGIS向けに拡張した言語。



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)